

新潟支部＝各地方自治体に
海運・船員の政策諸課題申し入れ

新潟支部は、新潟県・新潟市・村上市・佐渡市の船員と関係の深い各自治体に、第 85 回定期全国大会決定事項に基づく申し入れを行った。

申し入れには浅野忠行新潟支部長をはじめ職場委員と現場組合員が参加し、組合政治参与の渡辺和光新潟県議会議員にご同行いただいた。各申し入れでは、大会決定事項に基づく内容のほか、地域事情に関連する佐渡汽船航路や粟島汽船の航路に対する力強い行政支援をお願いした。

新潟県

2 月 4 日、新潟県交通政策局の太田勇二局長と濱口信彦副局長、港湾整備課長尾聡課長、港湾振興課石井克幸課長にご対応いただいた。太田勇二局長から「日ごろからの安全運航にご尽力いただき感謝する。離島航路は島民にとっての移動の足であり生命線である。佐渡航路の維持に向け、県として支援すべきところは支援したい。粟島航路は島民人口が 300 人を割ったが、その重要性は変わらない。佐渡金銀山遺跡の世界文化遺産登録をきっかけに来島していただけるよう、二次交通の確保も含め、佐渡市と連携して観光客誘致を進めたい」との見解が示された。

同席した渡辺和光県議会議員と上杉知之県議会議員からは、船員不足が深刻であるなか、海運・水産は日本の生命線なので、今後もできる限りの対応を願うとした。

最後に、中川貴史佐渡汽船株式会社職場委員から、現場は使命感をもって細心の注意を払い安全運航に努めているので、行政の力強い支援をお願いしたいとした。

新潟市

2 月 4 日、井崎規之副市長にご対応いただいた。井崎規之副市長は現場組合員の、日ごろから離島航路の維持に向けた尽力に謝辞を述べ「新潟港は開港から 100 年を超える歴史ある港で、さらに昨年 7 月には佐渡金銀山遺跡の世界文化遺産登録が実現した。佐渡島の島民の生活の足として、また観光の玄関口として、利用促進に努めたい」との見解を示した。

同席した佐藤智矢佐渡汽船株式会社職場委員と渡辺明日本海曳船株式会社職場委員から、佐渡汽船株式会社の旅客需要の拡大に向けた取り組みと港の活性化に向けたポートセールスの推進をお願いし、中川貴史佐渡汽船株式会社職場委員は船員の後継者確保・育成の観点から、職業体験などについて意見交換を行った。

「海員だより」